RACE REPORT



SUPER FORMULA

Round.11 SUZUKA

第 11 戦　鈴鹿サーキット

2026 年 11 月 21 日（土）
予選・決勝
天候：晴れ　路面：ドライ

#38　阪口 晴南
予選　13 番手　決勝：10 位
#39　大湯 都史樹
予選　12 番手　決勝：6 位

2026 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、富士スピードウェイで行われた第９戦／第 10 戦から６週間のインターバルでいよいよ今シーズンの最終大会を迎えた。舞台は例年同様、三重県の鈴鹿サーキットだ。SANKI VERTEX PARTNER CERUMO・INGING は、富士を欠場した阪口晴南が復帰し、大湯都史樹とともにシーズンを良い形で終えるべく、11 月 20 日（金）に行われた２回の専有走行でセットアップの確認などさまざまな作業を行っていった。ただ、晴天ではあるものの専有走行を通じて風が強く、赤旗中断も相次いだことで、確認には難しいコンディションとなった。

QUALIFY 公式予選

11 月 21 日（土）　9:50 ～ 10:48　天候：晴れ　路面：ドライ
ベストタイム　#38　阪口晴南　1'38.752 ／ #39　大湯都史樹　1'38.063

迎えた 11 月 21 日（土）は、午前９時 50 分から公式予選がスタートした。鈴鹿サーキットはこの週末晴天が広がっており、気温 13 度／路面温度 17 度というコンディションながら、専有走行に続き風が強く、厳しい冷え込みとなった。

まずスタートした公式予選 Q1 のＡ組に出走したのは大湯。「専有走行では風の影響もあって、手ごたえがあまり感じられませんでした」という大湯だが、現在のスーパーフォーミュラは空力にシビアで、風により「変化の要素が大きくて、良い感触はあっても、途中で感触が悪くなる」という状況だった。そんな中、大湯はまずは Q1 では１分 38 秒 648 というタイムで６番手につけ、Q2 進出を果たした。

続くＢ組に進出したのは阪口。いざタイヤをウォームアップさせアタックに入ろうとしたが、そのタイミングで #36 坪井翔が最終コーナーでクラッシュしてしまった。Ｂ組は残り３分 10 秒まで時間が戻されアタックが行われたが、阪口は１分 38 秒 752 を記録するも僅差の７番手に。Q1 突破はならなかった。

「足りなかった部分もありますが、前日から赤旗明けに１周でアタックするときは感触が良くなかったです。そういう弱みが出やすい位置にいると感じました」と阪口は振り返った。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING は大湯のみが Q2 に進出したが、１分 38 秒 063 までタイムを縮めるも結果は 12 番手に。Q1 で予選を終えた阪口は 13 番手から決勝レースを戦うことになった。

「昨日より風は弱かったのですが、クルマは昨日の方が良い感触で、少しの差がタイムに影響してしまったと思います。ただ、昨日調子が悪かったライバルが今日速かったりと変化もあるので、そのあたりにヒントがあるかもしれません」と大湯は予選を分析した。



RACE

決勝レース

11月21日（土） 14:25～15:26 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'40.548（31L）／#39 大湯都史樹 1'40.836（19L）



公式予選から約4時間のインターバルで午後2時25分にフォーメーションラップが始まった第11戦の決勝レースは、晴天が続いていたものの気温14度／路面温度22度というコンディションとなった。

SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは大湯が12番手、阪口が13番手からスタートを切ったが、オープニングラップの位置取りが良く大湯が10番手、阪口が11番手に浮上する。レース序盤は大湯と阪口がオーバーテイクシステムを作動させながら競り合ったが、レース全体は大きな動きやアクシデントはなく、ポジションを守ったまま少しずつ12番手以下を引き離しレースを進めていった。

そんな中、8周目にはピットウインドウがオープンすると、SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台は、まずは阪口がピットインし作業を行っていく。

ところが阪口がピットアウトした直後の9周目、序盤16番手を走っていた#19 鈴木斗輝哉がスピンしデグナーふたつめのイン側でストップ。車両回収のためにセーフティカーが導入された。アウトラップだった阪口にはわずかにロスになってしまったが、一方でタイミングを逃さずピットインしたのが、当初はもう少し後のピットインを予定していた大湯。迅速な作業でチームは大湯を送り出すと、ピットレーン出口で他車と並走しながらも隊列に復帰。セーフティカー中の順位は大湯が8番手、阪口が12番手というものとなった。

14周目のリスタート後、ただひとりピット作業を遅らせていた#4 笹原右京がピットに向かうと、ひとつずつ順位がアップ。大湯は7番手、阪口が11番手で中盤のレースを戦っていった。今シーズン序盤戦は決勝ペースに苦しむことがあった2台だが、シーズン後半に取り組んだ改善が功を奏し、今回は上位陣と同等のペースで戦うことができていた。

大湯は前を行く#65 イゴール・オオムラ・フラガを追いながらレース後半に突入していく。また阪口は18周目、#8 山下健太をオーバーテイク。10番手に浮上した。

レースは僅差のまま進んだが、上位陣は大きな順位変動はその後もなく、大湯は7番手でチェッカーを受けた。その後、大湯とピットアウト時に並走していた#65 イゴール・オオムラ・フラガに対して、アンセーフリリースとして5秒のタイムペナルティが課され、大湯は繰り上がりで6位という結果で終えた。

一方、阪口はそのまま10位でフィニッシュ。SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGは2台が揃ってポイントを獲得して第11戦を締めくくった。

2台がともに良い決勝ペースで戦うことができたことは収穫ではあるが、一方で予選順位がもっと上ならば、表彰台争いもできたはずだ。今シーズンのラストレースとなる第12戦に向け、チームは予選から上位を目指して戦っていく。





COMMENTS ドライバー／監督コメント



38　阪口 晴南　SENA SAKAGUCHI

「第 11 戦はスタート直後の位置取りが良く、その後の攻防でも自信をもって順位を上げることができました。序盤は大湯選手と競り合いながらレースを進めていましたが、ピットタイミングをずらさなければいけないこともあり、自分が先に入りました。その選択肢は間違っていなかったと思いますが、セーフティカーが出た影響で何台かに先行されたので、その点は残念です。でもその後１台を抜くことができてポイントも獲れたので、グリッドを考えると良いレースができたのではないかと思います。ペースとしては、入賞圏内の中ではあったと思いますが、さらに上を狙いたいですし、明日は予選から上位に食い込めるよう、頑張っていきたいと思います」



39　大湯 都史樹　TOSHIKI OYU

「序盤からうまく順位を上げられましたが、タイヤの温まりも悪く、もう少しうまくできたかもしれないので、その点は課題ですね。また序盤は前のクルマとの特性の違いがあり、なかなか抜くことができませんでした。こちらも今後検証したいです。とはいえ、基本的なペースが悪くないことも確認できました。今まで鈴鹿ではかなり苦しくなっていたのですが、今季後半戦に取り組んだことが実ってきたので、その点はすごくポジティブです。これが結果にも繋がりました。実は少しトラブルもあったのですが、それでも入賞できたのは、ベースが高まったからだと思います。明日は予選から前に行きたいですし、上位と戦えるよう準備をしていきたいと思います」



立川 祐路 監督　YUJI TACHIKAWA

「予選では阪口選手が Q2 に進出できず、大湯選手も進出はしたものの、２台揃って少し予選でのパフォーマンスが足りませんでしたね。決勝レースでは追い上げを目指しましたが、阪口選手が先にピットイン、大湯選手を引っ張る作戦にしました。阪口選手はセーフティカーで少し損をしてしまいましたが、順位を挽回してくれたのは良かったです。大湯選手については、セーフティカーをうまく利用して順位も上げることができました。２台とも挽回はできましたが、予選から上位につけなければいけないと思います。明日の第 12 戦は今シーズンの最後のレースですからね。今年いちばんのレースを戦ってシーズンを締めくくることができるよう、頑張っていきます」





RACE REPORT

RESULT リザルト

第 11 戦鈴鹿サーキット　決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	1	岩佐歩夢	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'58.134	
2	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	56'59.455	1.321
3	16	野尻智紀	AUTOBACS MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	57'00.043	1.909
4	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	57'04.020	5.886
5	7	小林可夢偉	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'04.971	6.837
6	39	大湯都史樹	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'10.574	12.440
7	12	小出峻	ThreeBond SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	57'10.873	12.739
8	37	S. フェネストラズ	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'12.401	14.267
9	65	I. オオムラ・フラガ	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	57'13.666	15.532
10	38	阪口晴南	SANKI VERTEX CERUMOINGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'14.245	16.111
11	8	山下健太	KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'19.768	21.634
12	53	C. ブルツ	TEAM GOH SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'20.414	22.280
13	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'21.835	23.701
14	3	L. ブラウニング	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'22.451	24.317
15	97	R. スタネック	ﾅﾋﾞｸﾙ Buzz MK SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'26.334	28.200
16	28	小林利徠斗	KDDI TGMGP TGR-DC SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'30.838	32.704
17	14	福住仁嶺	NTT docomo Business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'32.277	34.143
18	10	Juju	HAZAMA ANDO Triple Tree SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	31	57'32.982	34.848
19	9	G. アレジ	KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	57'33.305	35.171
20	4	笹原右京	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	58'12.550	1'14.416
			以上完走				
	22	松下信治	DELiGHTWORKS SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	25	47'35.295	6Laps
	50	野村勇斗	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	17	57'56.029	14Laps
	19	鈴木斗輝哉	WECARS IMPUL with SDG SF23	TOYOTA/TRD 01F	9	15'34.123	22Laps
	64	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	3	5'27.287	28Laps

ドライバーランキング（上位）

Rank.	No.	Driver	Total
1	6	太田格之進	138
2	1	岩佐歩夢	112.5
3	65	I. オオムラ・フラガ	79
4	14	福住仁嶺	63
5	5	牧野任祐	54
6	19	Z. オサリバン	54
7	39	大湯都史樹	48
8	16	野尻智紀	47.5
9	37	S. フェネストラズ	43.5
10	36	坪井翔	43
11	38	阪口晴南	28
—	38	卜部和久	0

チームランキング（上位）

Rank.	Team	Total
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	176
2	TEAM MUGEN AUTOBACS	132
3	VANTELIN TEAM TOM'S	86.5
4	PONOS NAKAJIMA RACING	82.5
5	SANKI VERTEX PARTNERS CERUMO·INGING	72
6	NTT docomo Business ROOKIE	60
7	TEAM IMPUL	50
8	DELiGHTWORKS RACING	27
9	REALIZE KONDO RACING	19
10	KDDI TGMGP TGR-DC	17